

MAIRIE DE PARIS



INSTITUT FRANÇAIS



TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

PARIS 東京 TOIJS ONLY TANDEM

パリ東京文化タンデム2018
プログラム一覧

TokyoTokyo FESTIVAL



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises



CONCEPTION GRAPHIQUE : SARA CAMPO

目次

■小池 百合子 東京都知事、アンヌ・イダルゴ パリ市長、 ピエール・ビュレール アンスティチュ・フランセ理事長からのごあいさつ	2
■パリ東京文化タンデム 2018 について	3
■プログラム紹介	
東京で秋に開催されるプログラム	4
パリで秋に開催されるプログラム	13
パリで春に開催されたプログラム	17
■パリ東京文化タンデム 2018 の参加パートナー	20
■東京とパリの友好関係	22

ご挨拶



東京都知事
小池 百合子

東京都とパリ市は、友好都市となって以来 36 年間、スポーツ、環境、文化など幅広い交流を行ってきました。

日仏友好 160 周年となる 2018 年には、日本とフランス、そして東京都とパリ市が伝統を大切に、新しい時代を共につくっていくパートナーとして、「パリ東京文化タンデム 2018」を契機に一層交流を深めていきます。

11 月には、パリ市の協力を得て、日本の伝統であり、芸術であり、環境の知恵でもある「風呂敷」をテーマにアートイベントをパリ市庁舎前広場で開催し、江戸東京の文化や芸術などの魅力をパリの皆様にお伝えしますので、ご期待ください。



パリ市長
アンヌ・イダルゴ

1982 年の友好都市関係締結以来、パリと東京は互いに刺激を与え合ってきました。

2018 年の今年、2020 年と 2024 年のオリンピック・パラリンピックの両都市間の引き継ぎを控え、2 都市のこの特別な関係は、意欲的な文化交流プログラムによってさらに一段と深まります。

伝統文化からデジタル・アート、舞台芸術、そして応用美術と幅広い分野を包括するこのプログラムは、パリと東京のそれぞれの独特の文化を通して両都市に共通する文化の豊かさを改めて強調するものとなっています。



アンスティチュ・フランセ理事長
ピエール・ビュレール

パリ東京文化タンデムの革新性と伝統を踏まえたプログラムを通じて、2 都市の市民が互いの創造性をより深く知る機会を得られることを喜ばしく思います。

アンスティチュ・フランセはパリ市と東京都の間で実施される、2018 年のこの素晴らしい交流を支援できることを光栄に思っています。

パリ東京文化タンデム 2018 について

東京都及びパリ市両都市間の文化交流の活性化に向け、パリ市、東京都、アンスティチュ・フランセが協力し、「パリ東京文化タンデム 2018」を実施します。両都市の文化施設等において多彩な文化イベントを実施し、両都市の文化の魅力を世界に幅広く発信します。

パリ市は毎年、アンスティチュ・フランセと協力し、姉妹友好都市と数多くの共同企画を実施する文化交流事業を行っています。タンデム（連携）の目的は、両都市の市民に相手都市の文化シーンの活力を紹介することです。これまでにブエノスアイレス、ベルリン、ダカール、ローマ、ロンドン、ニューヨーク、マドリードとともに実施され、今年は東京都とパリ市がタンデムを実施します。

今回のタンデムのテーマは「現代の視点で伝統を再発見する」です。あらゆる表現による芸術を紹介するだけでなく、両都市の伝統と歴史文化を際立たせるものになっています。また、今年のタンデムは日本とフランスの外交関係樹立 160 周年を記念する事業にもなっています。

東京で秋に開催されるタンデムのプログラムは、まずは東京芸術劇場でのパフォーマンスを皮切りに、アール・デコの展覧会、週末のパリの街角の気分を味わえる音楽やダンスのイベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』と続きます。一方のパリでは、江戸・東京の伝統文化の風呂敷を紹介するパビリオンがパリ市庁舎前に登場し、関連イベントも開催されます。

パリ東京文化タンデム 2018 はパリ市、東京都、及びアンスティチュ・フランセが在日フランス大使館の協力を得て実施しています。

東京で秋に開催されるプログラム

2018年9月28日（金）-9月30日（日）

東京芸術劇場

ショーケース公演 『間 エチュード』（MA étude）

フランス現代サーカスの鬼才、カミーユ・ボワテル氏の最新作『間-MA』の制作過程が垣間見えるショーケース公演を開催します。日仏国際共同制作で2019年に完成予定の同作の公開リハーサルや一部試演、レクチャーなどを開きます。

ボワテル氏は、類まれな身体能力を活かしたパフォーマンスやビジュアル表現によって、これまでサーカスの既成概念を覆してきました。そして今回の新作では、さまざまな舞台装置や照明を駆使し、重力や陰影、シチュエーションなどによって隔てられ、“叶わぬ愛”を余儀なくされる恋人2人を描き出します。日本人のクリエイターとしては、ボワテル氏が「本能的な感覚を持つ」と評する日本の伝統楽器・笙の奏者、井原季子氏が舞台に柔軟で即興的な要素を加えます。異色のコラボレーションによって、どこにも見たことがないような世界が創り上げられるプロセスをお見せする予定です

同公演は東京芸術祭の一環で、東京芸術劇場とアソシエーション・リメディアが共同制作します。

構成・演出：カミーユ・ボワテル

出演：カミーユ・ボワテル セヴ・ベルナルル ほか

音楽・演奏：井原季子



『間 エチュード』のイメージ

2018年10月6日(土) - 2019年1月14日(月・祝)

東京都庭園美術館

展覧会『エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し』

フランスで生まれたアール・デコの美意識と造形は、非ヨーロッパ圏の文化・美術との出会いの影響を大きく受けました。ツタンカーメン王墓の発見やロシア・バレエとジョゼフィン・ベイカーの登場、自動車メーカーのシトロエンが行ったアフリカ縦断プロジェクト「クロワジール・ノワール」、アジア横断プロジェクト「クロワジール・ジューヌ」、そして1931年開催のパリ国際植民地博覧会など、様々な出来事が2つの大戦の間のパリを賑わせました。

この時代に美術家/デザイナーたちは、遠い地の色彩、素材、技法の影響からどのように新しい表現を生み出したのでしょうか。本展では、色彩豊かな服飾とジュエリー、さまざまな装飾美術、そしてアフリカやアジアに触発されたダイナミックな絵画に彫刻と、30年代美術館、装飾美術館、モビリエ・ナショナルなど、フランスの美術館所蔵の国内初公開の作品を中心に約85点を紹介します。

会期中に同展覧会の日仏の研究者らによる講演会などの関連イベントも予定しています。



写真:ポール・ボワレ《ローブ》藤田真理子、ポール・ジュリアン・アレキサンダー蔵

2018年10月17日(水) - 10月21日(日)

渋谷・代官山など

複合文化イベント『Saison Rouge ~Weekend in Paris-Tokyo』



週末のパリの街角の雰囲気を感じて——。

タンデムの開催に際し、パリの最先端の音楽、ヒップホップ・ダンス、映画、移動式キッチンカーで注文する“ストリート・フード”など、パリで注目を浴びている文化やトレンドを体感できる複合文化イベント Saison Rouge を開催します。

Saison Rouge は、ダイバーシティ（多様性）とサステナビリティ（持続可能性）の2つをコンセプトに展開します。ジャンルの垣根を越え、アーティストも観客も、そしてアートイベントもが、互いにインスパイアし合うようなプログラムです。多様な人生や価値観が共存する街、パリ。そんな寛大なパリの姿を感じることができるでしょう。環境に配慮しながらイベントを満喫できるように、エコキャンペーンなども同時に実施する予定です。代官山・渋谷界隈のライブハウス 5 会場を中心として展開される 5 日間のイベントで、パリの香りをお楽しみください。

本企画は、東京都、パリ市、アンスティチュ・フランセパリ本部の協力の下、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、株式会社エフ・イー・ユー、株式会社ランプリング・レコーズが主催します。

<https://saison-rouge.com/>

ライブ



クララ・ルチアーニ

現在のパリの音楽シーンを代表するアーティストたちが一堂に会します。ジャンルレスな芸術的パフォーマンスを繰り広げるピアニスト Chassol（シャソル）の演奏、フレンチポップスの新生 Clara Luciani（クララ・ルチアーニ）の歌声をお届けします。またパリを代表するレコードレーベル、Roche Musique、Animal 63 からそれぞれを代表するアーティスト Darius、The Blaze を招聘しクラブイベントを開催します。

パリ発 LGBT ナイトを渋谷で

同性カップルを「結婚相当」として証明書を発行する条例を定めた全国初の自治体、渋谷区で開催されるこのイベントでは、性の多様性に関して先進国であるフランスのパリより、現在最も注目を集めるアーティスト Kiddy Smile を招聘し、日本のシーンで活躍する国内アーティストたちを交えた一夜をお送りします。音楽、ナイトライフを通じ、性別、肌の色、年齢などに関係なく、誰もが自他を認めることができるようになることを願います。



ローザ・ボヌール

映画

ジャン＝リュック・ゴダール監督に見いだされ、一気にスターとなったヌーヴェル・ヴァーグを代表する女優アンナ・カリナの話題のドキュメンタリー映画『Anna Karina, souviens-toi』を本邦初上映します。



Hip Hop 《made in France》

パリを中心に位置するヒップホップに特化した文化施設 La Place（理事長：アリエスパー）が手掛けたメイド・イン・フランスのダンスプログラムを通して、最先端のヒップホップを紹介します。

ヒップ・ホップダンス・ナイトのほか、年齢を問わずに参加可能なワークショップも開催する予定です。

パリ式ストリート・フード

パリでは美食家たちが食欲に新しい食の楽しみ方をいつも探しています。移動式キッチンカーや屋台などで、見た目も味も大満足なストリート・フードが今大人気です。

Saison Rouge では、パリのシェフが日本の食材を使い、日本のアーティストと協力して新しいメニューを創り出す予定です。気軽に味わえる新しい形のフランス料理をお楽しみください。



環境に配慮したイベント

Saison Rouge は、サステナブルで多様性に富んだ社会のあり方を意識して様々な試みを行います。その一例として、France liberté 財団が行っているエコキャンペーンを実施します。再利用可能なボトルをオープングレセプション会場で配布します。



2018年10月27日(土) -10月28日(日)

東京芸術劇場

演劇公演 『ガラスの動物園』

ダニエル・ジャンヌトーがテネシー・ウィリアムズ（1911-1983）の作品を見いだしたのは、宮城聡が2011年に日本でSPAC-静岡県舞台芸術センターの俳優と作品をつくるという提案をしたときでした。それまでは「好みではない」と思っていました。演出家ジャンヌトーは「自由と思いがけない夢の場」を開いてくれる『ガラスの動物園』がもつすばらしい豊かさに気づかされました。5年後、ダニエル・ジャンヌトーはこのフランス語版を製作し、ソレーヌ・アルベル（ローラ）、カンタン・ブイッサー（ジム）、オリヴィエ・ヴェルネル（トム）、そしてアマンダ役のドミニク・レイモンが深く輝かしい演技を見せました。『ガラスの動物園』はテネシー・ウィリアムズがいうように「思い出の戯曲」であり、トムは語り手であると同時に、自分が語る物語の登場人物ともなっています。この戯曲は作者の人生に靈感を得ており、精神疾患を病んでいた妹への無限の愛を物語っています。20世紀アメリカ演劇の傑作です。

同公演は東京芸術祭の一環として企画されました。

作：テネシー・ウィリアムズ 仏語翻訳：イザベル・ファンション

演出・舞台美術：ダニエル・ジャンヌトー

上演時間：2時間15分

出演：ソレーヌ・アルベル、ピエリック・プラティエール、ドミニク・レイモン、オリヴィエ・ヴェルネル、
ジョナタン・ジュネ（ビデオ出演）



© Mammam Benranou

2018年10月27日(土) -10月29日(月)

東京芸術劇場

ライブ・アート・パフォーマンス 『ダーク・サーカス』

「いらっしゃい、いらっしゃい、不幸になりいらっしゃい！」

本作はこの奇妙なスローガンで幕をあける、音とイメージのライブパフォーマンスです。ロマン・ベルモンとジャン＝バティスト・マイエの2人によって、リアルタイムに描かれるイメージと生演奏される音楽が大スクリーンに繰り広げられます、いわば“フィルムのない映画”ともいえる作品です。彼らは、予め動画を編集するなど、テクノロジーは使用せずに、フェルトペンや木炭、絵の具、インク、白墨、砂等々といった材料を使い、観客の目の前でイメージをつくりだします。

本作は、絵本作家ペフによる書き下ろし作品を出発点として生まれました。観客は、イメージと音楽が次々と展開されるスクリーンを通して、すばらしいサーカスと出会うことになります。アヴィニョン演劇祭であらゆる年齢層の観客を魅了した、詩情あふれるアート・パフォーマンスです。

同公演は東京芸術祭の一環として企画されました。

対象年齢：7歳以上

作・出演：ロマン・ベルモン、ジャン＝バティスト・マイエ、(ステレオプティック) 原作：ペフ

上演時間：55分



©JM BESEVAL

2018年11月11日（日）-11月26日（月）

東京都美術館

現代工芸品展覧会 『Création sous influence -響き合う創造-』

パリ市のアトリエ・ド・パリの企画によるこの展覧会は、日本文化の影響をさまざまな形で受けたフランス人作家の作品を紹介します。夢の中で思い描いた日本、実際に訪れて目の当たりにした日本、あるいは素晴らしい技術が生まれた故郷としての日本など、ヴィラ九条山に滞在した作家やパリ市主催のデザインコンテストでグランプリを受賞した作家ら28人の作品からは、日本の和の心に触発されたフランスの創造力を見取ることができます。

11月11日から26日まで東京都美術館で同展が開催される前に、京都でも作品展示があります。また、11月9日（金）-11月11日（日）にトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）で開催されるオープンスタジオにも出展作家のAnne Xiradakis氏が参加予定です。



フランス人デザイナーPierre Charrié氏と京都の伝統を受け継ぐ螺鈿工房「嵯峨螺鈿 野村」のコラボレーションによるインテリアオブジェ「Vison Visu」。鏡の反射によってシンメトリーな螺鈿のデザインが浮かび上がります。

© Baptiste Heller

2018年11月中旬-12月中旬（予定）

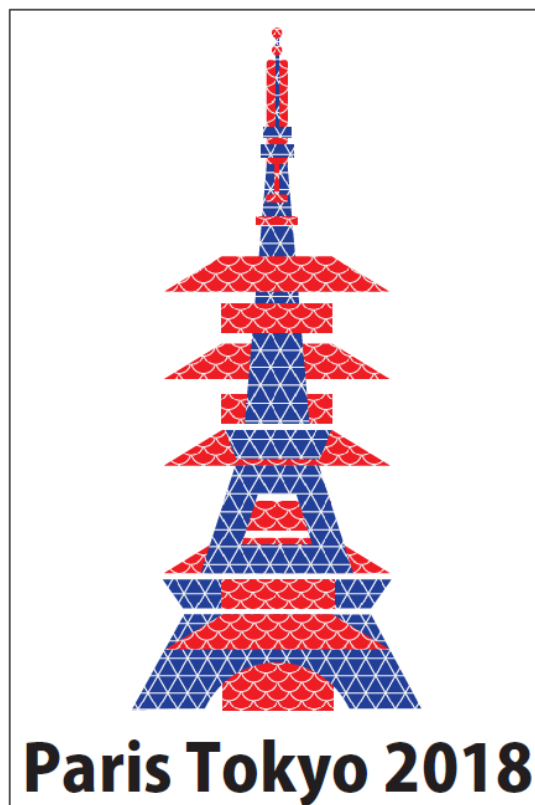
新宿駅西口（予定）

大学生の東京・パリのポスターコンテスト

首都大学東京と EPSAA（パリのグラフィックアート・建築高等専門学校）の学生が参加するポスターコンテストを開催します。東京とパリの2都市を結びつけるものや両都市を象徴するものなど、2都市を自由に表現したポスターをそれぞれに制作します。

東京の優秀作品15点とパリの優秀作品16点の合計31枚のポスターと一緒に展示されます。

また、同時期にパリ市でもサンジャック塔の柵に同じ作品が展示されます。



首都大学東京の菊池風藍さんのポスター（左）と山口千晴さんのポスター

2018年12月16日(日)15:00 開演

東京芸術劇場

海外オーケストラ公演『パリ管弦楽団』

パリ管弦楽団は、フランス屈指の交響楽団です。フランスの建築家ジャン・ヌーヴェル氏が設計した新たなホールの「フィルハーモニー・ド・パリ」(2015年)を活動拠点とし、国内外で年間100回以上の公演を行っています。2016年より同交響楽団の音楽監督に就任した指揮のダニエル・ハーディング氏は、就任直後の来日公演でマーラーの『交響曲第5番』(主催：東京芸術劇場)を披露し、聴衆に大きな感動を与えました。

再び来日する本公演では、ソリストにイザベル・ファウスト氏(ヴァイオリン)を迎え、ベルクの『ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」』とマーラーの『交響曲第1番「巨人」』の2つの曲目を演奏します。色彩豊かな音色が特長のパリ管弦楽団が、これまで数多くのマーラー演奏に取り組んできたハーディング氏と共に、雄大な世界観を創りあげます。

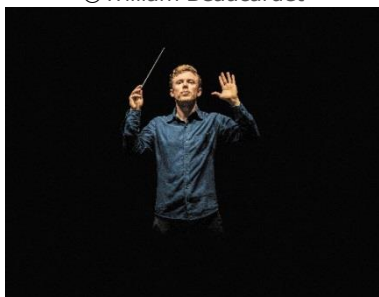
出演 指揮：ダニエル・ハーディング

ヴァイオリン：イザベル・ファウスト 管弦楽：パリ管弦楽団

曲目 ベルク／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」

マーラー／交響曲第1番 二長調「巨人」

指揮：ダニエル・ハーディング
©William Beaucardet



ヴァイオリン：イザベル・ファウスト
©Felix Broede



指揮：ダニエル・ハーディング & パリ管弦楽団
©William Beaucardet



パリ管弦楽団 ©William Beaucardet



パリで秋に開催されるプログラム

2018年9月8日(土) - 2019年3月10日(日)

アル・サン・ピエール美術館

展覧会『アール・ブリュット ジャポネⅡ』

タンデムの開催に際して、アル・サン・ピエール美術館では社会福祉法人 愛成会と協力し、日本のアール・ブリュットを紹介する2回目の展覧会を開催します。アール・ブリュットが現代アートの領域で独自の存在感をもつようになる中で、アール・ブリュット発祥の西洋の枠組みを超えて、日本発のアール・ブリュットはその可能性拡大の一翼を担っています。

出展作家 52組の作品を見ると、どの文化にも独自の神話や表現手法を生み出すアーティスト、もしくはアーティストのグループがいるということが分かります。工房であろうと、個人で創作活動をしている作家であろうと、伝統的な陶芸から折紙の応用のようなものまで、作家たちはあらゆる手法と材料をもちいて制作に取り組んでいます。

今回展示される作品には、初めて海外で出展されるものも多くあります。日本のアール・ブリュットを代表する作家で、2013年のベネチア・ビエンナーレでも賞賛された澤田真一氏は新作を携えてパリに再び戻ってきます。澤田氏の作品にも見られるように、創造とは、まさにアール・ブリュットという概念の提唱者として知られるジャン・デュビュッフも語ったように、「完全に純粋で、なまで、再発見された、すべての相の総体における作者による芸術活動であり、作者固有の衝動だけから出発している」ものです。

今回の展覧会は、『アール・ブリュット ジャポネ』(2010-2011)に続く第2弾です。日本の作家52組の作品が今回のために特別にパリに集結します。また、展覧会との連携企画として、知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の公演もあります。ナント市では2019年2月23日(土)と24日(日)にフランス国立現代芸術センターリュウ・ユニックで、パリ市では2月27日(水)と28日(木)にパリ日本文化会館でパフォーマンスを披露します。



福井誠『双頭ドラゴウーグ』(2018年) 写真:高石巧



瑞宝太鼓 撮影:松永育子

2018年10月19日(金) - 11月17日(土)

パリ4区庁舎

写真展『東京画 SHIBUYA - TOKYO CURIOSITY』

伝統と現代性が共存し、さまざまな世代の人たちが行き交う渋谷は、対照的なものの共存とダイナミックな変化によって生じる創造的なカオスを内包しているといえるのではないのでしょうか。世界的にも有名な交差点がある渋谷は、新しいトレンドが生まれる東京の実験場です。そして日本全体が抱えているあらゆるパラドックス、魅力、はたまた異国情緒までもが詰め込まれている場所でもあります。

今回開催される写真展は、渋谷の個性に焦点を当てた初の展覧会です。アートプロジェクト『東京画』の100人の写真家が渋谷の貴重な光景、驚くような場面、わくわくする非日常そして穏やかな日常のシーンを捉えました。こうしたさまざまな視点が合わさることによって、渋谷の魅力を紹介します。



©Naoki Honjo



©Yukinori Tokoro

2018年11月1日(木) - 11月30日(金)

サンジャック塔の柵

大学生のパリ・東京のポスターコンテスト

EPSAA（パリのグラフィックアート・建築高等専門学校）と首都大学東京の学生が参加するポスターコンテストを開催します。東京とパリの2都市を結びつけるものや両都市を象徴するものなど、2都市を自由に表現したポスターをそれぞれに制作します。

パリの優秀作品16点と東京都の優秀作品15点の合計31枚と一緒に展示されます。

また、同時期に東京でも同じ作品が展示されます。

2018年11月1日(木) - 11月6日(火)

パリ市庁舎前広場

『FUROSHIKI PARIS』

パリの市庁舎前にて、建築家・田根剛氏のアートディレクションのもと、風呂敷包みをイメージしたパビリオンを設置します。

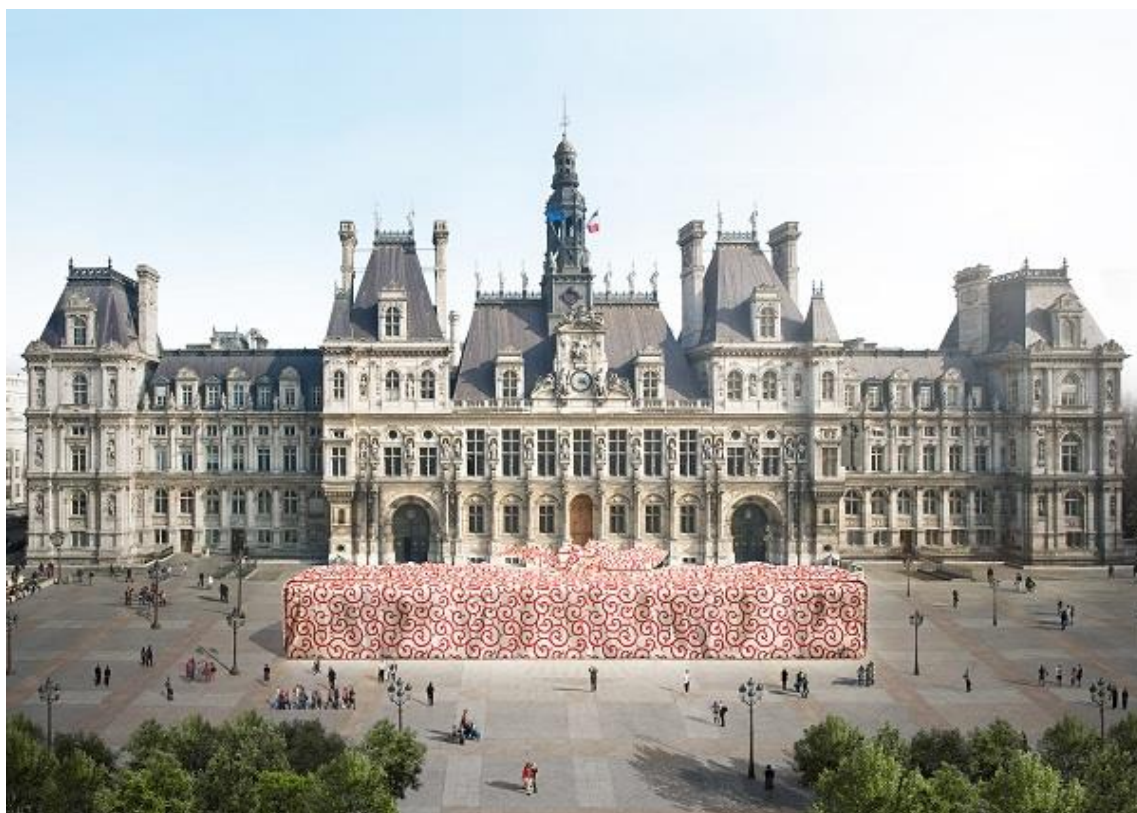
内部では、風呂敷関連の様々な展示のほか、今日までの風呂敷の様々な使い方を映したビデオプロジェクションなどが展開されます。

展覧会のテーマは「風呂敷のアート」で、日仏のアーティストやデザイナーがデザインした風呂敷が展示されるほか、参加型デモンストレーションも展開されます。

風呂敷における伝統的な包む技術とは、四角い布を折りたたんで物を包んで運ぶというものです。風呂敷は8世紀(奈良時代)から日本で使われ始め、時が経つにつれて日本人の日常生活に馴染んだものとなりました。

世界初のエコバッグとされており、文化的、環境的、美的特長があるこの伝統技術を世界に発信させるための最高の展覧会がパリで開催されようとしています。

また、パリ日本文化会館では、11月2日・10日・17日・24日に風呂敷ワークショップが開かれます。詳細については www.mcjp.fr をご覧ください。



FUROSHIKI PARIS © Atelier Tsuyoshi Tane Architects | Photo: Marc Verhille

2018年11月2日（金）・11月3日（土）

パリ日本文化会館

からくり人形の動態展示

本催しでは、19世紀前半に「からくり儀右衛門」こと田中久重（1799-1881）が日本各地で行った「からくり人形」の興行を再現します。

「からくり人形」が制作された江戸時代（1603-1867）は、約250年もの長い間戦乱のない世が続いた世界的に見ても稀有な時代でした。平和が続いたこの間、産業や商業が著しく発展し、職人らの高度で緻密な技術力が醸成しました。なかでも「からくり人形」は、動力や仕掛けに優れた技巧が結集し制作されたものです。田中久重による、文字書き人形、弓曳童子などの「からくり人形」は、見世物興行で披露され、多くの人々を驚かせ喜ばせました。

一方、田中久重は和時計、蒸気機関、電話機など、他の様々な発明でも才能を発揮し、日本の科学技術史にその名を刻んでいます。その足跡は、在来技術から近代技術への推移と発展を体現したものといえるでしょう。

このたびのパリ公演は、貴重な「からくり人形」の実演をご覧ください。またとない機会となります。本公演により、現代まで脈々と息づいている、日本のものづくりの原点を紹介します。

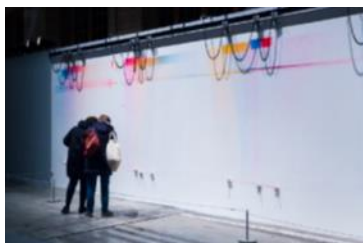


江戸東京博物館での
「夢からくり一座」による実演風景



参考図版「文字書き人形」（「夢からくり一座」所蔵）

パリで春に開催されたプログラム



2017年12月9日 - 2018年3月4日

サン・キャトル・パリ

展覧会『Les faits du hasard』

デジタル・アートの国際展ビエンナーレ・ネモのプログラムとして、サン・キャトル・パリのディレクター、ジョゼ＝マニュエル・ゴンサルヴェと、ビエンナーレ・ネモのディレクター、ジル・アルヴァレスの共同監修のもと企画された展覧会で、2組の日本人アーティストの作品が展示されました。赤松音呂氏のガラスを使ったサウンドインスタレーションと、やんツー氏と菅野創氏が制作したレール上を動く描画装置のインスタレーションです。

この展覧会は Arcadi プロデュースによるビエンナーレ・ネモ（パリ/イル・ド・フランス）の一環として企画されました。

So Kanno et yang02 - Semi-Senseless Drawing Modules

© Masayoshi Masago

2018年2月2日 - 2月11日

ゲテ・リリック

アーティスト couch のインスタレーション『Tracing Sites』

couch は宮崎大樹氏・宮崎怜子氏の2人組のアーティストです。デジタル・ショック（主催：アンスティチュ・フランセ日本）、スコピトーン・フェスティバル（フランス・ナント市）、そしてビエンナーレ・ネモ（パリ/イル・ド・フランス）が主催する、日本人の若手メディアアーティストを表彰する「デジタル・ショック賞」を2017年に受賞しました。

ゲテ・リリックで展示されたインスタレーション作品『Tracing Sites』では、couchの2人はバーチャルの世界と物理的な空間のハイブリッド化を試みています。鑑賞者の受動的な姿勢に疑問を投げかけ、自発的に動き、日常生活で出会う経済的、政治的、歴史的なテーマに積極的に関わることを促す作品です。



© Tracingsites - Collectif Couch © Vinciane Verguethen



2018年2月13日-3月31日

パリ・ランデヴー（パリ市庁舎）

展覧会『浦沢直樹の作品世界』

同世代の漫画家の中で最も著名で人気もある浦沢直樹氏の漫画の展覧会が開催されました。数百もの原画や資料で構成されたこの展示は、2018年のアングレーム国際漫画祭からパリの市庁舎に巡回しました。

本展覧会は、パリ市とアングレーム国際漫画祭が共催で実施しました。

2018年3月3日 21時～

サン・キャトル・パリ

ジャパン・トリビュート・ナイト

タンデムの一環として開催された展覧会『Les faits du hasard』の一夜限りのクロージングイベントが催されました。瞑想的でエネルギーに満ち溢れた音楽とパフォーマンスを堪能し、東京の文化を満喫できるナイト・フェスティバルとなりました。中山晃子氏、和田永氏、Lite、トモコ・ソヴァージュ氏らが参加し、パリの市民が東京のアートシーンで活躍する素晴らしいアーティストたちと出会う機会になりました。

本イベントは、ピエンナーレ・ネモの一環として、ArcadiとIna-Grmとの共催により実施されました。

2018年3月4日

MAC/VAL

小泉明郎氏のパフォーマンス&トーク

（4月14日から開催される展覧会のプレイベント）

1976年に群馬に生まれた小泉明郎氏は、国際基督教大学、ロンドンのチェルシー・カレッジ、オランダ国立芸術アカデミーと国内外で学び、現在国際的に活躍しているアーティストです。写真や映像、パフォーマンスやコラージュ作品を通して日本人としての自己のアイデンティティーを問い直し、日本社会のタブーや歴史に埋もれたトラウマを探る作品を制作しています。1月中旬から4月中旬にかけて行われたMAC/VALでのレジデンスプログラムでは、地域の住民の若者を対象に行ったりしーちをもとに制作を行いました。作品はその後、美術館で展示されました。



小泉明郎『夢の儀礼—帝国は今日も歌う—』（2016）、ビデオ・インスタレーション

2018年3月20日-4月7日
サン・キャトル・パリ
パリ・ダンス・シークエンス 2018

3月20日-3月24日

『Plexus』

振付：オレリアン・ボリー 出演：伊藤郁女

多重に反響するソロ作品。演出家・振付家のオレリアン・ボリー氏がダンサー・伊藤郁女氏のために制作した同作は、唯一無二で暗示的な空間を作り出します。実存的かつ感覚的で、人形劇やパフォーマンス、インスタレーション、影絵、そして日本の神話の中でも特に神道に関連する要素が交錯する魅惑的な作品となっています。



© Aglaé Bory



Robot, l'amour éternel © Gregory Batardon

4月3日-4月7日

伊藤郁女による『Robot, l'amour éternel (ロボット、永遠の愛)』

伊藤郁女氏は、独特の世界観を持った振付作品を10年近く前から発表し続けています。本作は自身の体験を元に人間の魂の流浪を探究したソロ作品です。死と孤独と対峙しながら、強烈な特異性を放つパフォーマンス作品を今回初披露しました。

2018年3月25日

ゲテ・リリック

ジョン（犬）と岸野雄一氏による音楽劇『正しい数の数え方』
「キャプテン・フューチャー」

（ゲテ・リリックの子供向けプログラム）スペシャル版

犬のジョン（オルガン担当）と岸野雄一氏（ボーカル担当）が制作した『正しい数の数え方』はアニメ、人形劇、パントマイムと、観客のリアクションが一体となって物語が展開していくパフォーマンスです。タンデムではスペシャル版を上演しました。

上演時間：60分、フランス語字幕付 対象：6歳以上



© Jon the dog & Yuichi Kishino © Vinciane Verguethen

2018年4月13日

DOC

イベント『Paint Your Teeth』

『Paint Your Teeth』は、作品制作と上演のためのアートスペース「DOC」で3年前から開催されているイベントです。実験音楽、コンテンポラリー・ダンス（舞踏）、アート・パフォーマンスなど、東京のオルタナティブなアートシーンで活躍するさまざまな分野のアーティストが毎回集まります。今回はタンデムのプログラムとしてイベントが開催されました。

この催しは実験文学の作家で1998年から東京在住のDavid Hoeningmanが主宰しています。日本の芸術機関に所属していないアーティストたちが意見を交換・共有できて、コラボレーションが生まれる場所を作りたいという思いから始まりました。

出演：Paul Sister / Irieza Royal & The Lynch Summary / Atomic Farm / Salome No Kuchibiru / The Ills / Hiruri / Iris

パリ東京文化タンデム 2018 の参加パートナー

東京都



東京には長い歴史に支えられた伝統文化が息づいています。同時に、世界トップレベルのオーケストラの演奏会、各国の名画の並ぶ展覧会が毎日のように開かれています。歌舞伎や能など日本の伝統芸能ばかりかオペラやバレエなどの西洋芸術、実験的・先端的な現代芸術も盛んで、東京発のアニメ、ゲーム、デザイン、ファッションなどは、常に世界から注目を集めています。

東京都生活文化局文化振興部は、2年後に控えた東京 2020 大会に向けて、東京の多彩で奥深い芸術文化の魅力を国内外に発信するため、様々な事業を実施しています。「パリ東京文化タンデム 2018」は、東京が長年の良きパートナーであるパリと共に、オリンピック・パラリンピックの開催都市として、相互の文化的な学びや交流を促す絶好の機会になると確信しています。

パリ市



世界に開かれた文化の都パリ市は、ユニークで創造的で野心的で、高い水準を求める革新的な文化を発信しています。芸術に関わる機関の数と質の高さ、芸術的な催しの豊富さ、芸術に携わる人々の多様さは、パリ市が世界中の人々をひきつける大きな要素となっています。

パリでは毎年 70 以上の芸術や文化の制作や普及を行う施設や組織を支援しています。演劇、ダンス、サーカス、ストリートアート、パントマイム、ジェスチャーパフォーマンス、人形劇や分野横断的なパフォーマンスなど、ジャンルや表現方法、形式を問わず、舞台芸術を盛り上げ奨励します。文化関連施設、イベント、芸術に携わる有能な人材を幅広くサポートすることで、パフォーマンスのあらゆる分野やアイデアを育み、すべての人が幅広く豊かな芸術に触れられるように取り組んでいます。

国際的な活動の基盤になっているのは、多様な文化のための永続的な対話です。パリは、海外の多くの首都や主要都市と密接な関係を構築しています。その一環として、パリや海外の各機関や関連団体と連携し、海外のパートナーのために文化交流プログラムやパリの得意分野を活用した連携プロジェクトを実施しています。なかでも、パリの文化を海外に伝えることと世界中のアーティストや知識人を迎えることには力を入れています。この目標を実現するために、パリ市はアーティスト・イン・レジデンスやアンスティチュ・フランセとの協定、パリの文化団体への支援、亡命中のアーティストや作家を支援する国際的な都市間ネットワーク「ICORN」への積極的な参加など、様々な活動を行っています。

詳しくは Paris.fr と Quefaire.paris.fr をご覧ください。

アンスティチュ・フランセ



アンスティチュ・フランセは、フランスの対外的な文化活動を担うフランス政府公式機関です。その活動には芸術分野間の交流、知的交流、文化的および社会的イノベーション、言語教育協力が含まれます。フランス語の普及や、芸術作品、アーティストやアイデアの交換を推し進めることにより、文化についての理解をより深めようとしています。アンスティチュ・フランセは、ヨーロッパ・外務省（MEAE）と文化省（MC）の外郭団体として、フランスの外交的な影響力の強化に積極的に貢献しています。アンスティチュ・フランセのプロジェクトやプログラムは、世界に広がるフランス大使館文化部、アンスティチュ・フランセ、アリアンス・フランセーズの広いネットワークを通じて、それぞれの国・地域の状況に基づいて実施されています。

東京都とパリ市の友好関係

東京都とパリ市は、1982年の友好都市提携以来、環境、文化、スポーツ、都市計画、そして観光といった多分野にわたる協力を行ってきました。

昨年の小池百合子・東京都知事とアンヌ・イダルゴ・パリ市長の会談では、友好都市として、また、2020年及び2024年のオリンピック・パラリンピック開催都市として、下記の分野における交流・協力を更に深めていくことを確認しました。

スポーツ

両都市は、連携してオリンピック・パラリンピック競技大会への気運を盛り上げるとともに、大会を通じて世界中に興奮と感動を呼び起こし、記録と記憶が人々の心にいつまでも残る素晴らしい大会をつくるために、知見の共有を図り、また共通の課題の解決に向けて協力します。

環境

両都市は、ともに世界の環境先進都市として、あらゆる環境分野においてパートナーシップを強化し、地球規模の共通課題の解決に貢献していきます。東京は2018年に大気汚染対策及び廃棄物処理の国際会議を開催する予定であり、また、パリ市は2017年11月に「都市大気汚染に関する世界観測機構」を立ち上げました。両都市は、この機会を捉えてこれらの分野における知見と経験の共有を図るとともに、互いの施策の更なる強化に貢献していきます。

文化

両都市は、2018年にパリ市及び東京都において、アンスティチュ・フランセとともに、開催する文化交流事業のタンドムを契機とし、芸術文化の魅力発信を高めていくとともに、芸術文化交流を通じた相互理解の更なる促進に向けて協力します。

観光

両都市は、それぞれが持つ観光の魅力を世界に発信するため、相互観光プロモーション等の実施により、観光分野における相互の交流を促進します。

東京とパリの友好関係の歴史

1982年：東京・パリ友好都市提携

2015年：当時の東京都知事 舛添要一氏のパリ訪問

新しい協力合意書「東京都とパリ市の交流・協力に関わる合意書」への署名

2016年、2017年：パリ市長の東京訪問

2017年：小池百合子 東京都知事のパリ訪問、アンヌ・イダルゴ パリ市長との共同コミュニケ

